



梅沢 政隆
リポーター



大久保勝男
リポーター



遠藤 千春
リポーター

久慈城跡をきれいに

大川目中学校清掃ボランティア 10月27日



城跡を覆う大量の落ち葉を、懸命に集める生徒たち

大川目中学校の全校生徒39人が、久慈城跡の清掃を実施。落ち葉で埋め尽くされていた場所は、生徒たちの頑張りで、見違えるようにきれいになりました。同中学校2年生の中村菜菜さんは「大変だったけど、歩く道がきれいになって良かった」と成果を述べました。

巡回美術館の記念誌寄贈

スクールギャラリーツアー閉校記念誌 11月11日



久慈青年会議所大橋理事長（左）と、あーとびる麦生熊谷理事長（中央）

久慈青年会議所は平成21年から県内の芸術作家の作品を市内の小学校で巡回展示する「スクールギャラリーツアー」を開催。令和元年に全小学校での展示を完了したことから、これまでの事業の成果をまとめた「閉校記念誌」を制作し、刊行された冊子が市に寄贈されました。



まちのわだい

白樺美林の環境を整備

「くじ☆ラボ」環境保全活動 11月13日



1/参加者全員で記念撮影 2/道路わきに積もった落ち葉は水を吸ってなかなかの重労働 3/白樺に巻き付いたツタは太さを増し、もはや木です 4/丁寧に刈ります 5/白樺の苗を植樹します

ボランティア団体「くじ☆ラボ」は、地域資源の魅力を高める活動として、平成26年から毎年、平庭高原の草刈りや倒木の処理、植樹などを行っています。この日は総勢76人が参加し、令和3年最後の活動として、草刈りや積もった落ち葉集め、白樺に絡まったツタを取るなどの環境整備を行いました。白樺をモデルにした時計が縁で、平庭高原の白樺林の保全活動を支援しているセイコーウオッチ株式会社（東京都）から参加した立見友伽さんは「白樺を自分の目で見てみたかったのと、SDGsの取り組みにも興味があり参加しました。保全活動や植樹など貴重な体験ができたので、この経験を生かしていきたいです」と話しました。

気持ちを込めて

久慈中学校寄付 11月9日



生徒が主体となって、活動しました

久慈中学校の生徒会執行部16人とボランティア委員会24人は校内で募金を集め、市に寄付しました。コロナ禍で大変な思いをしている医療従事者の助けになればと始めたもので校内にポスターや呼び掛けで周知。文化祭で保護者の協力もあり48,530円を募ることができました。

ボールはともだち

八戸・久慈・二戸圏域サッカー交流体験教室 11月14日



ミニゲームで、プロ選手と一緒にプレーする参加者

プロサッカーチーム「いわてグルージャ盛岡」と「ヴァンラーレ八戸」の選手を招き、八戸・久慈・二戸圏域の小学生のサッカー交流体験教室を開催。久慈小学校6年生の小柳雄作さんは「相手をかかわすドリブルやゴールの攻め方など、勉強になりました」と楽しそうに話しました。

いっしょうけんめい描きました

第38回岩手県海の子絵画展 10月30日



賞状を掲げる大向琉斗さん（左）と三太地春和さん（右）

沿岸部に住んでいる小・中学生を対象に開催している海の子絵画展「特別部門久慈市長賞」に、3点が選ばれました。入賞した小袖小学校3年大向琉斗さんは「7月の磯体験の様子を書きました。人を描くのが難しかったので、入賞してうれしいです」と笑顔を見せました。

頑張る中学生を支援

宇部中学校に部活動用品を寄付 11月5日



生徒たちに激励の言葉をかける大畑代表取締役

株式会社大畑建築設計が、宇部中学校にテニスネットや野球ボールなど、部活動用品を寄付。大畑一男代表取締役は「工事業者のテニスコート無償整備を知って、自分も生徒たちを応援したいと思った。部活動や学校生活に役立ててほしい」と激励しました。

世界遺産に感動

女性部会が御所野遺跡を訪問 10月30日



竪穴住居内に侵入、4500年前の縄文人の生活に想いをはせ、感動しました

市老連女性部会は、各地区の会員代表ら10人で令和3年「世界遺産」に登録されたばかりの「御所野縄文公園」で研修会を行ないました。参加者はガイドの説明を熱心に聴き、住居跡や出土した土器類から縄文人の生活を連想するなど、有意義な研修会となりました。（梅沢）

地元栽培じゅうね味噌の餅に列

第5回小久慈朝市 11月7日



香ばしい、じゅうね味噌の餅を買い求める人たちが列ができました

今年最後の小久慈朝市が旧長内中で開催され、旬の野菜や自家焙煎コーヒーなど多彩な出店に会場は大にぎわい。この日は小久慈じゅうね研究会が遊休農地で栽培したじゅうね（えごま）油を初出品。じゅうね味噌をつけたじゅうね餅も列ができる人気ぶりでした。（大久保）

芸術の秋がやってきた

令和3年度久慈市民芸術文化祭 11月5日～7日



美しい音色を奏でるマンドリン

新型コロナウイルスの影響で2年ぶりとなる久慈市民芸術文化祭がアンバーホールで開催。華道や絵手紙などの展示が並び、延べ1,261人が訪れました。感染症対策を徹底し、舞台発表も実施。出演者の日頃の練習の成果に客席からは大きな拍手が送られました。

司馬遼太郎が見た景色

案内板「巽山から見た久慈の風景」除幕式 11月10日



当時を知る人には懐かしく、知らない人には興味深い内容の案内看板

歴史を活かした街づくりの会は、巽山公園展望台に久慈市街の移り変わりを説明する案内板を設置。加藤春男会長は、50年前に司馬遼太郎が当地を訪れ「古色を帯びた銀器のような静けさ」と表現したことに触れ「久慈を表す言葉として市民に深められることを願う」と述べました。



小渡 正利
リポーター



森岩 航
リポーター